芦田川さかなマップ

2020年9月27日作成

※このマップは、公益財団法人日野自動車グリーンファンドの助成を受けて作成したものです。

凡例	確認マーク（○印）は左側が最新年度です。	
●2020年	●2014年	●2008年
●2019年	●2013年	●2007年
●2017年	●2011年	●2006年
●2016年	●2010年	●2005年
●2015年	●2009年	

特 特定外来種

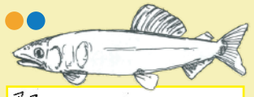
貴 きれいな川に住む魚など、芦田川にとって貴重な種類。

府中大渡橋

調査した場所
田畑の間に家がまばらにあるような場所で、比較的水はきれいである。川幅は広く、水の流れは平い。川の中に州がたくさんあり、草が茂っているため、水辺の生物にとって生きやすい環境だといえる。見つかる魚の種類が多く、アカザも見られる。川岸が整備され、川の中に入りやすくなっている。

アカザ
宮城県・秋田県以南の本州、四国、九州に広く分布する。水が比較的きれいな川の中流から上流下部の瀬の石の下や間にすみ、石のすき間をかいくぐるように泳ぐことが多い。背びれに1本、胸びれに1本ずつ計3本の大きなトゲがあり、トゲには毒線があるので、ささされると痛い。芦田川水系での生息数はきわめて少ない。

ギギ
本州中部以南、四国、九州の東部に分布し、比較的水がきれいで、石や流木、石垣などがあるところで見られる。背びれと胸びれのとげが発達していて、ささされると激しく痛む。つかまえると胸びれでギーギーなく。



アユ
本州全域に住んでいる。天然アユは減少しているため、琵琶湖などから種魚を取り寄せて放流している。石の表面に付いている藻を食べる。中流に多くいる。

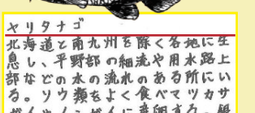
ムギツク
琵琶湖以西の本州と、九州北部に分布し、大きな石があるような所のよどみにいる。小さなところ口が上向きについている。すぐ物かげにかくれてしまう。石についている水生昆虫を食べる。

ズナガニゴイ
近畿地方以西の限られた川にしかいない。川の中流から下流域に分布し、流れのゆるやかな川底に砂利にもぐって水生昆虫などを食べる。
普通のニゴイよりも体が小さいが頭と口は長く、体側に小黒点の列がある。

ヤリタナゴ
北海道と南九州を除く各地に生息し、平野部の細流や用水路上部などの水の流れのある所にいる。ソウ類をよく食べマツカサガイやイシガイに産卵する。腹白色で体幅が著しく狭く、背びれに黒い斑点がある。

カワムツ
本州中部以西に生息しているが、現在では関東地方でも見られる。河川の上、中流や流れのゆるやかな淵に多くいる。なわばり意識が強く雑食性で昆虫や藻などを食べる。大い1本の暗色の縦縞があるのが特徴。

ドンコ
東北を除く本州全域に住む。中流から下流に多い。夜行性の傾向が強く、砂底を好み、小魚・エビ・カニ・水生昆虫を食べる。広島県内では減少しているが、芦田川水系では、比較的安定した個体群がいる。



ウナギ
太平洋側は北海道の日南地方以南、日本海側は石狩川以南の日本各地に分布する。背側は暗色で、腹側は白色、特別の斑紋はない。
春から秋にかけて水生昆虫類、小型の魚類、貝類、エビ類、カエル類などを活発にとり、成長する。

特
オオクチバス（別名：ブラックバス）
北アメリカ原産で、今では国内のほぼ全域に分布している。止水や流れのゆるやかな河川に生息し、大きな口で魚類や甲殻類を食べる。体側から背にかけて不規則な暗斑があり、腹側が黄味を帯びた白色となっているのが特徴。特定外来種に指定されている。

特
ブルーギル
原産地は北アメリカ中東部一帯で、現在は日本各地に分布。魚は暗褐色の横縞が入る。エラぶたの上端に黒色の斑紋が多くみられる。特長。

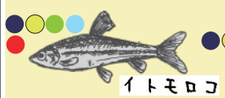
オオシマドジョウ

カマツカ

コイ

タモロコ

ナマズ



イトモロコ

オイカワ

メダカ

コウライニゴイ

カワヨシノボリ

府中大渡橋で見つけた生物

- コオニヤンマ
- カワニナ
- ミズカマキリ
- シジミ属
- ヌマエビ科
- ヒトナガカワトビケラ
- ニンギョウトビケラ
- アメンボ
- サナエトンボ科
- カワトンボ科

安全に川に入れて楽しむ事ができて良かったです

子供に魚とりの楽しさを教えることができた

名前を知らない生物の名前が分かった

水質調査結果（パックテスト等）　調査日：2020年9月27日		
項　目	地点名	
	芦田川　府中大渡橋	出口川
調査日	9月27日	9月27日
時間	10時10分	11時00分
気温（℃）	30℃	31℃
水温（℃）	22℃	21℃
透視度	100cm以上	100cm以上
pH	7.75	7.55
COD（mg/l）	1mg/L	2mg/L
亜硝酸（mg/l）	0.01mg/L	0.01mg/L
リン酸（mg/l）	0.2mg/L	0.2mg/L

まとめ

一般参加で調べた出口川では、カワムツやギギなど、比較的きれいな水質にすむ生き物が見つかったとともに、スタッフで調べた府中大渡橋では、出口川では見つからなかったアカザなど、様々な種類の魚が見つかりました。

両地点とも平成30年7月の大雨で川底が削られたり、土砂で埋まったり、川の環境が一変しましたが、2年を経て、自然な川底に生息する魚も徐々に確認する事ができ、元の環境が戻りつつある傾向が見られました。

出口川

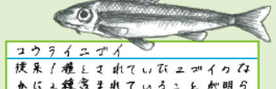
調査した場所
出口川は町の中をながれていて、生活排水が流れこむ川である。川岸には草が多く生えているが、頻繁に刈り込みが行われていて、魚のすみかが減っている。川幅が狭く流れがゆるい。川底は砂が積もっていて魚の種類が多く、カワヨシノボリが定着している。

カマツカ
本州、四国、九州に分布し、用水路の砂や石の川底で流れのある場所でみられる。口が下向きについていて、くちびるが大きくのびる。口からえさを砂ごとほおばり、エラ穴から砂を出しながら前進する。

オオヨシドジョウ
本州、四国、九州の一部に分布し、冷たく水のきれいな水域の砂底にいる。眼下にとげがたたまれており、手でにぎると現れる。おどろいたりすると砂によくもぐる。川底で小型生昆虫、底生藻類、有機物を砂と一緒に食べ、砂だけを出している。

ギンブナ
全国各地に分布する。川の下流の淀みや、平地の低湿地帯や沼地に生息する。雑食性で底生動物および藻類などのほかに、場所によって動物プランクトンなども食べる。ギンブナには、雄はいない。

ドジョウ



コウライニゴイ
使果！移植されていたようだが、なぜ、雑食性であることが明らかになり、日本での分布が確認された。中南部地方から九州地方、国内の大河川の中・下流に生息する。砂底を好み底生小動物や藻を食べる。

イトモロコ
愛知県以西、九州北部まで住んでいる。
中流から下流に多い。芦田川では比較的上流側に分布しており、支流の淀みで多数採れていることがある。

タカハヤ
日本海側では富山県以西、太平洋側では静岡県以西の本州、四国、九州に分布し、上流部の植物の根周りなどでみられる。ウロコがとても小さく、体表はタメヌメしている。

ナマズ

特
オオクチバス

ニシキゴイ

タイリクバラタナゴ

カワムツ

ヤリタナゴ

ズナガニゴイ

ギギ

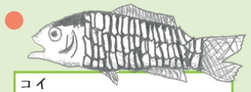
ドンコ

ムギツク

カワヨシノボリ
中部地方以西の西日本に住む。上流中流の流れのゆるやかな所に住み、藻類や小型の水生昆虫を食べる。止水域ではなぜか生息できない。

オイカワ
関東以西の本州、四国、九州に分布し、河川中・下流域および湖沼に広く生息する。雑食で付着藻類から水生昆虫や落下昆虫、底生動物や浮遊動物などを食べる。また、成長にともなって食性転換が起こる。雄は、産卵期には、婚姻色が出て、とてもきれいだ。

メダカ
本州以南に広く分布し、池、水田や用水、河川の下流域など、流れの緩い場所に生息する。動物・植物プランクトンや水面に落ちた小さな昆虫などを食べる雑食性。近年は、水路のコンクリート化など開発が進み、次第に住み場が失われている。



コイ
日本各地に分布。
流れのゆるやかな淵などにすむ。
岸辺の植物や浅瀬の水草などに産卵する。
雑食性で、底生動物のタニシやイトミミズ、水草などを食べる。

貴
カワヒガイ
濃尾平野以西から九州北西部の中下流地域に生息している。夏季には本流から水を引く用水路にも生息。体側に青や緑色などの輝きがみられる。動物食主体の雑食性。産卵はイシガイなどの二枚貝に行われる。

出口川で見つけた生物

- コオニヤンマ
- カワニナ
- コヤマトンボ
- ハグロトンボ
- アメリカザリガニ
- コシボソヤンマ
- シジミ属
- スジエビ
- オナガサナエ
- ギンヤンマ
- アメンボ
- イトトンボ科
- スッポン
- サナエトンボ科
- モンキマメゲンゴロウ
- タニシ
- ヌマエビ科
- ガガンボ科
- ヒゲナガカワトビケラ
- カゲロウ目

さかなクイズ